

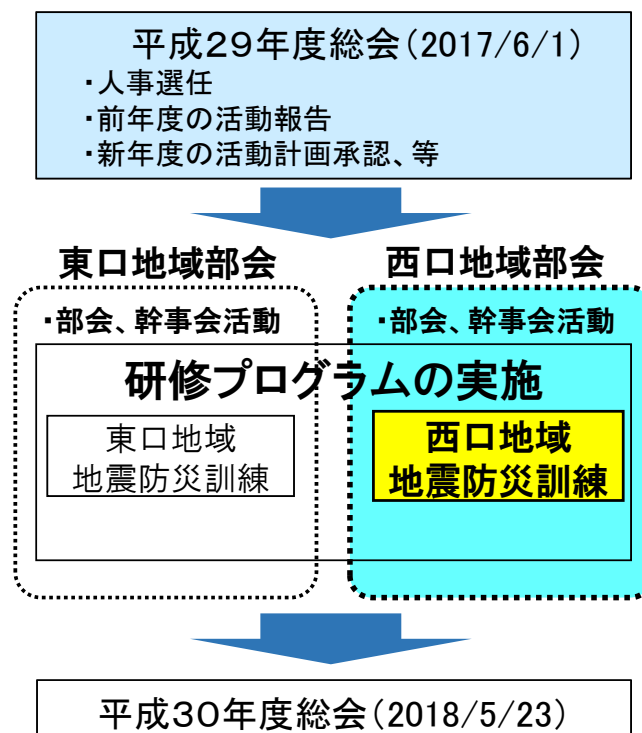
平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会

西口地域部会 活動報告

2018年5月23日

工学院大学教授
久田嘉章

平成29年度協議会活動概要



平成29年度西口地域部会活動一覽

	総会・地域部会・訓練	幹事会
2017年4月		●4/27(木)第1回幹事会
5月		●5/25(木)第2回幹事会
6月	●6/1(木)平成29年度総会 ●6/29(木)第1回西口地域部会	●6/22(木)第3回幹事会
7月		●7/31(月)第4回幹事会
8月	●8/28(月)西口訓練説明会	●8/21(月)第5回幹事会
9月	●9/7(木)西口地域地震防災訓練(多数傷病者対応訓練)	●9/20(水)第6回幹事会
10月	●10/5(木)第2回西口地域部会 ●10/30(月)西口訓練説明会	●10/23(月)第7回幹事会
11月	●11/8(水)西口地域地震防災訓練(自衛消防・現地本部訓練)	●11/30(木)第8回幹事会
12月	●12/8(金)第3回西口地域部会(訓練検証会)	
2017年1月		
2月		●2/20(火)第9回幹事会
3月	●3/1(木)第4回西口地域部会(活動報告会)	

第1回西口地域部会



第2回西口地域部会



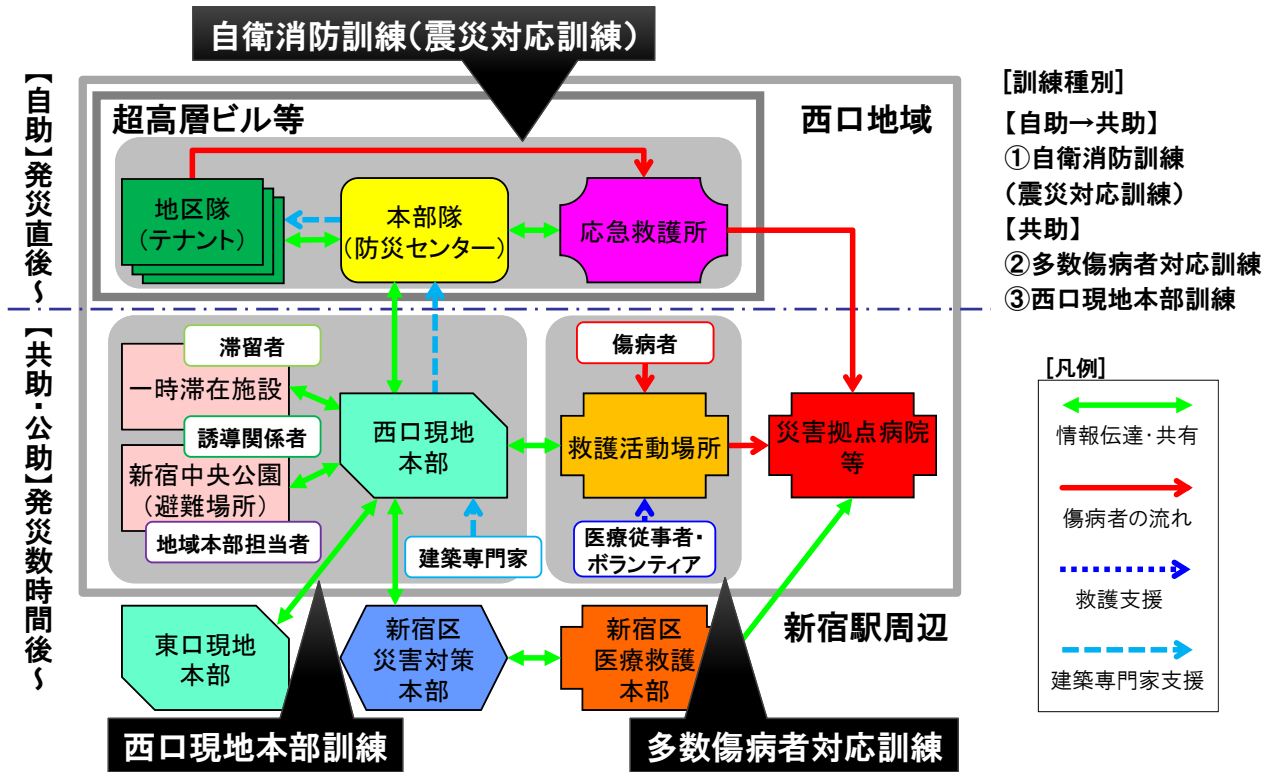
第3回西口地域部会(訓練検証会)



第4回西口地域部会(活動報告会)



地震災害時の地域連携コンセプト案



平成30年度 新宿駅周辺防災対策協議会 総会
2018年5月23日

新宿駅西口地域地震防災訓練概要

	多数傷病者対応訓練	自衛消防訓練 (震災対応訓練)	西口現地本部訓練
訓練日時	9月7日(木)13:30~17:00	11月8日(水)午後	11月8日(水)午後
訓練会場	新宿駅西口広場イベント コーナー A2ゾーン	工学院大学新宿校舎	工学院大学新宿校舎、他
参加者 <small>※運営参加者除く</small>	48名	19名	34名
主な訓練 実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当・観察記録 ・搬送 ・情報収集伝達 ・医療従事者とのコミュニケーション ・医療従事者による活動支援(医学的アドバイス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災対応 ・避難誘導 ・救出 ・傷病者対応 ・建物被害対応 ・情報収集・伝達 ・被災状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地本部開設・運営 ・通信・情報共有 ・滞留者誘導支援 ・物資・人材調整 ・被災状況把握 ・情報提供
主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・応急救護班 ・情報連絡班 ・傷病者役 	(本部隊、地区隊各々) <ul style="list-style-type: none"> ・隊長 ・通報連絡班 ・初期消火班 ・避難誘導班 ・応急救護班 ・安全防護班 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部長、副本部長 ・情報収集・発信班 ・情報整理・集約班 ・情報共有班 ・運営支援班 ・帰宅困難者対策班 ・滞留者役

多数傷病者対応訓練実施概要

駅周辺での多数傷病者の発生に備える地域連携による共助の訓練

■訓練目標

- ①多数の傷病者を想定した地域の共助による応急救護活動を行う
- ②地域で傷病者に対応するための情報収集伝達を行う
- ③地域の医療従事者と非医療従事者のコミュニケーションを図る

■場面設定

- 都区部直下地震(M7.3)発災数時間後以降
- 発災現場付近の不特定の救護活動場所における傷病者対応

■参加者

48名(協議会事業所31名(うち講習会参加11名)、新宿区医師会17名)
※運営参加者を除く

自衛消防訓練実施概要

自衛消防組織による総合的な震災対応訓練

■訓練目標

- ①各班の役割を実践するとともに相互協力して事案に対応する
- ②地区隊と本部隊が情報を共有し連携して活動する
- ③地域の関係機関と情報を共有する

■場面設定

- 都区部直下地震(M7.3)発災直後および発災数時間後
- 仮想超高層テナントビルにおける初動対応

■参加者

19名(本部隊9名、地区隊8名、傷病者役2名)

西口現地本部訓練実施概要

西口現地本部および関係機関による情報共有訓練

■訓練目標

- ①西口現地本部の役割を知る
- ②西口現地本部運営手順を知る
- ③現地本部運営マニュアル【西口現地本部版】の実効性を検証する

■場面設定

□都区部直下地震(M7.3)によるフェーズⅠ(発災)、フェーズⅡ(残留・退避)、フェーズⅢ(滞在)、フェーズⅣ(帰宅)の対応

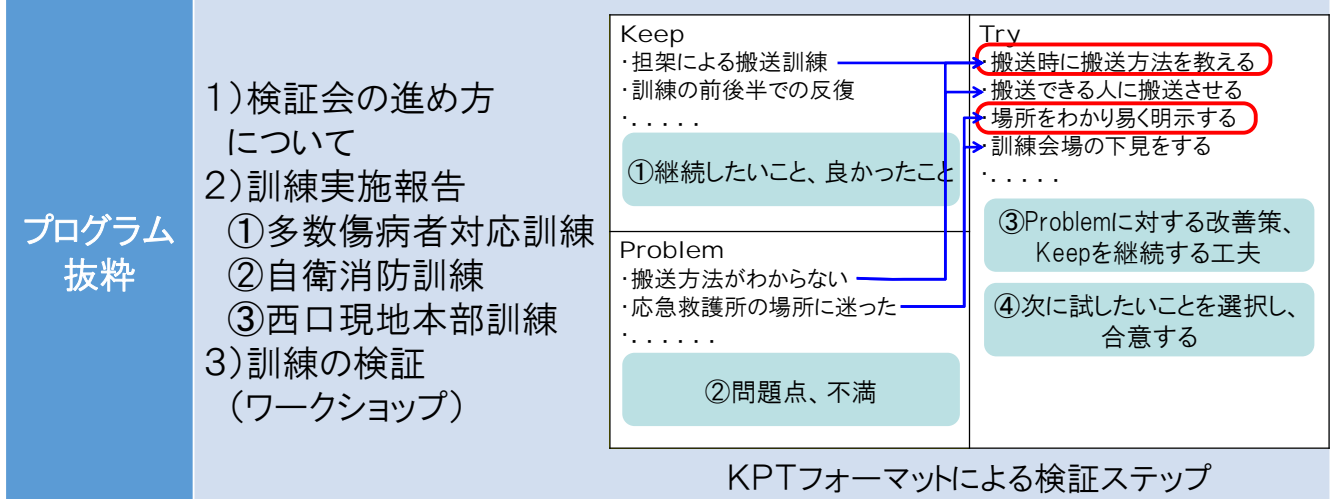
■参加者

34名(西口現地本部要員11名、区関係機関4名、滞留者役19名)



訓練検証会実施概要

訓練名称	新宿駅西口地域地震防災訓練検証会 (平成29年度新宿駅周辺防災対策協議会 第3回西口地域部会)
実施日時	2017年12月8日(金) 14:00~16:30
主会場	工学院大学新宿キャンパス高層棟28階 第1会議室
目的	地震防災訓練の実施内容をふりかえり成果と課題を検証する
参加者数	28名 ※運営参加者を除く
主催	新宿駅周辺防災対策協議会



新宿駅周辺防災対策協議会 2017年12月8日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会

テーマ: 多数傷病者対応訓練のふりかえり

WS参加者(訓練時役割): Y.H(統括リーダー・応急救護班リーダー) M.K(情報連絡班リーダー・情報連絡班) H.N(情報連絡班) R.S(応急救護班・傷病者役) A.S(応急救護班・傷病者役)

Keep(継続したいこと、良かったこと)	Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)
<p>【非日常体験】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多くの傷病者の受付でパニックの経験が出来た(H.N) 2. 多数傷病者対応の経験(Y.H) 3. 普段行うことのできない対応を経験できた(A.S) <p>【具体的な傷病者対応のやり方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 搬送方法が知れてよかった(R.S) 5. 手当をするときバディにとても助けられた(R.S) 6. 日赤の役割の大きさ(H.Y) <p>【傷病者の気持ちの理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 傷病者は声掛けをしてもらおうと安心する(A.S) 8. 傷病者がどう不安に感じるのかが分かった(A.S) 	<p>【非日常体験】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ◎ 救護所の場所を決める(H.N) 2. ◎ 東京医大との連携(+JR病院など)(Y.H) 3. ◎ 東京都と連携した広域搬送(Y.H) 4. ◎ 日赤ボランティアとの連携の仕組み(Y.H) 5. 日常から非日常の経験(Y.H) 6. ◎ AED、心肺蘇生も必要(Y.H) 7. 人工呼吸器の使用訓練(M.K) <p>【具体的な傷病者対応のやり方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 受付人数を増やす(H.N) 8. ◎ 少人数での対応方法(M.K) 9. トリアージタグの位置づけは?(H.N) 10. ◎ 簡単なマニュアル(R.S) 11. ◎ チェックリスト(協議会でオーソライズ)(Y.H) 12. ◎ 重傷者の搬送方法(タクシーなども)(Y.H) 13. ◎ クラッシュシンドロームの対応理解(Y.H) 14. ケガのパターンを減らす(R.S) 15. ◎ 呼びかけと応答のルールを決める(H.N) 16. ◎ 声だし(Y.H) 17. ◎ 専門スタッフによる積極的な声掛けの実施(A.S)
<p>Problem(問題点、不満)</p> <p>【非日常体験】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現実的か?(病院に行く?)(Y.H) 2. 素人にはかなり難しい(Y.H) 3. 心肺蘇生+AEDは?(Y.H) <p>【具体的な傷病者対応のやり方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. メールをどう使うか(H.N) 5. 傷病者と記録シートと一緒に来ない(R.S) 6. 受付時間が長かった(R.S) 7. 応急救護の役割の中で動きがわからなかった、アドバイスがもう少しほしい(A.S) 8. どの項目を書くのが効率的か?(H.N) <p>【訓練方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 役割がたまたま一緒だったので前後半分分けたい(M.K) 10. 訓練前にリハーサルが必要(M.K) 11. 講習会、訓練双方参加が少ない(Y.H) 	<p>【訓練方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 18. ◎ シートを順番に渡す(R.S) 19. ◎ 傷病者による記録の付け方(R.S) 20. ◎ 観察シートの簡素化(M.K) 21. ◎ その場講習の実施(Y.H) 22. ◎ 事前のレクチャー増やす(H.N) 23. ◎ 事前訓練への参加率向上(A.S)

◎: 合意された項目

テーマ: 自衛消防訓練のふりかえり

WS参加者(訓練時役割): S.T・K.F(本部隊応急救護班) S.I(本部隊避難誘導班・初期消火班) N.O(本部隊長・通報連絡班) H.F(地区隊安全防護班)

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【事前説明・講習会】

1. 講習会があると理解しやすい(K.F)
2. 役割の直前説明があり、わかりやすかった(H.F)

【訓練内容】

3. 前後半で2回行った(S.I)
4. 訓練の繰り返し(2回)(S.T)
5. 1回目と2回目での役割交替(H.F)
6. 詳細がわからないこと(N.O)

【ツール】

7. 情報共有手段のデジタル化(アプリ化)(S.T)

Problem(問題点、不満)

【事前説明・講習会】

1. 講習会に出ていない(S.I)
2. 事前講習に参加できなかった(K.F)
3. 手順の事前説明がやや不足(S.T)

【訓練内容】

4. 資機材などがすべて準備されている(N.O)
5. ダミーテナント(新宿書店)が仮想で、イメージしにくい(N.O)
6. 本部隊、地区隊の両方を体験ができない(H.F)
7. 本部隊の初期消火班の出番が少ない(S.I)
8. 本部隊応急救護所として受け入れ先の了解が取れないと搬送できないことに不安を感じる(傷病者がたまる)(K.F)

【見学者対応】

9. 見学者にもトラメガなどを活用したアナウンスなどがあると良い(H.F)

【ツール】

10. 情報機器の伝達にこだわると、対応が困難なケースが発生しそう(K.F)
11. QRコード、写真送付の現実性(S.T)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【事前】

1. ◎新宿駅周辺防災対策協議会のHPを見てもらえるよう呼びかけ等を行う(N.O)
2. 講習会内容の詳細を知らせる(S.I)

【訓練内容】

3. 初期消火、避難誘導班の役割の廃止(S.I)
4. 火災状況範囲を時間経過と共に変化させる(K.F)
5. リアルさを出すなら準備は最小限(N.O)
6. 応援が必要な火災想定とする(臨機応変に役割を変更させる想定)(K.F)

【ツール】

7. 傷病者情報伝達にスマホが使用できない想定があってもよい(K.F)
8. QRコードを使用するのであれば、手順を分かりやすく資料化(S.T)
9. QRコード以外の情報共有手段(カメラ、ホワイトボードからの情報送信)(S.T)
10. ◎ツールの講習会を増やし経験を積んでもらう(H.F)
11. ◎アプリの事前学習(e-ラーニング)(S.T)
12. ◎訓練に入る前にアプリの練習を当日実施する(N.O)

◎: 合意された項目

テーマ: 西口現地本部訓練のふりかえり

WS参加者(訓練時役割): N1(本部長)・M(副本部長)・K, Y(情報収集発信班)・H, N2(情報整理集約班)・F(ファシリテータの発言、まとめ)

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【訓練の意義】

1. 訓練自体の意義があった(M・Y)
2. 本部長を中心とした迅速な対応(K)

【情報拠点】

3. 現地本部での情報共有(H)
4. 口頭で伝えられた情報の復唱(K)

【様式】

5. シート(様式)の利便性・わかりやすさ(Y・N2)

【その他】

6. 備蓄・資源等の確認を行ったこと(H)

Problem(問題点、不満)

【役割のイメージ不足】

1. 現地本部の役割を整理するべき(N1)
2. 班ごとがスムーズに連携することの難しさ(N1)
3. 班の役割として何をしたいのかわからなかった(M)
4. 班の役割を間違えた(ホワイトボードへの記録は自分の役割でなかった)(Y)

【情報のトリアージ】

5. 情報のトリアージを行っていなかった(Y)
6. 情報元の確認・記録(H)

【情報伝達の方法】

7. 情報を確認するための問い合わせに時間を要した(K)
8. 各所からの問い合わせに対して回答する方法や内容がわからなかった(Y)

【情報の更新】

9. 情報の内容を変更する方法がわからなかった(N2)
10. 現状をリアルタイムで確認できるものがなかった(Y)

【様式】

11. 近隣施設の情報様式は分割されているとよい(N2)
12. 地域の情報様式は使用しなかった(N2)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【事前の内容理解】

1. ◎A4用紙1枚を見れば役割を理解できるようまとめておく(M)
2. 訓練に対する準備が必要(M)
3. 班の役割になれる必要がある(N1)
4. 班の役割の内容を説明する時間を設ける(K)
5. ◎事前に現地本部での心得を理解できるようにする(F)

【役割の理解を深める】

6. ◎役割を決めるところから訓練を行う(K)
7. 班の役割分担をシンプルにする(K)
8. 班の役割を細分化しない(K)
9. ◎班の役割を固定しすぎず柔軟に対応する(K)
10. 班の分け方を見直す(M)
11. 班に相談できる相手が必要(N1)
12. 各般のリーダーが必要(N2)

【訓練の継続】

13. 現地本部訓練は繰り返し行う(H)
14. 立ち上げから訓練を行う(M)
15. 訓練参加者を増やす方法が必要(F)
16. ◎訓練を継続して行う(F)

【情報の見える化】

17. ホワイトボードに見出し(分類)をつける(N1)
18. ◎情報を集約し表示できるエクセルを作成(またはアプリを活用)しモニタに表示(F)
19. 現状がリアルタイムにわかるディスプレイに設置(Y)
20. 入力した情報がモニタに表示されるものを作成(Y)
21. 情報収集・入力のための単純な作業で運営できるシステムの構築(Y)
22. AIにより判断ができる運営システムの構築(Y)
23. 事業・事象の経過を途中で確認し表示(H)

【その他】

24. 現地本部要員参集体制の整備(F)
25. システムを利用等のためのハード面(電力)の整備(F)
26. ツールすべてを実際に使いやすいよう手軽なものにする(危機管理課)

◎: 合意された項目



西口地域部会活動報告のまとめ

■地域防災力向上を目指した1年間の活動

- 西口地域部会の開催(計4回)
- 幹事会の開催(計9回)
- 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施
- 訓練検証会、活動報告会の実施(西口地域部会として開催)

■新宿駅西口地域地震防災訓練を通じて西口地域における災害対応活動を総合的に実践

- 多数傷病者対応訓練
- 自衛消防訓練(震災対応訓練)
- 西口現地本部訓練

■訓練検証会、活動報告会により成果と課題を抽出し共有

- 訓練実施報告、KPTフォーマットを用いた訓練のふりかえり
- 活動報告、意見交換